

九条だより

第160号

北広島九条の会 2021・04・01 発行
事務局 梁川彰博 (ヤガワ アキヒロ)
TEL・FAX 375-9600
メール kitahiro-9jounokai@live.jp
ホームページ www.kitahiro9.org

◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇

4月例会のお知らせ

4月10日(土)午後2時 住民センター

〈お話〉 皆川 洋美 (みながわ ひろみ) さん

「北広島からジェンダーを考える・動く・実現する」

皆川さんはジェンダー問題にずっと関わって来られました。札幌のきたあかり法律事務所の弁護士です。

マスクの着用をお願いします。 資料代 200円 (高校生以下無料)

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

市民と野党の共闘で『安保法廃止』の政府を！

「スガ＝アベ政治」に代わる新しい政治を

衆議院北海道2区補選で、市民と野党の共闘による統一候補が間もなく実現。4月25日の投開票へ全力。

「政治とカネ」、国民への説明が果たされていません。

河井案里氏は議員辞職、吉川貴盛氏も辞職。スガ首相の長男だけじゃない総務省官僚の「接待」は底なし。

◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇

新型コロナ感染で、政府は4都県の「緊急事態宣言」を3月21日で解除を決定、本当に大丈夫なのでしょうか。

いま必要なことは、PCR検査で無症状者を早く見つけ出すこと、「いつでも、どこでも、だれもが何回も」行えるように大規模検査をすることです。そして医療機関への減収補填を急ぎ、クラスターの発生が急増している高齢者施設の関係者へのいっせいで検査を定期的実施すること、変異ウィルスの広がりに対応することです。

皆様こまめに換気、手洗い、消毒に心がけましょう。

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

東京五輪・パラリンピックは中止すべきです。

コロナ禍で、この際東京オリンピックは中止すべきです。世論調査では8割が「中止・延期」を求めています。

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

*まなび座 4月18日(日)午前10時～12時、広葉交流センターにて。

テキスト 斎藤幸平著「人新世の『資本論』」(集英社新書)

*平和五七五「灯火会」 4月17日(土)午前9時半、夢プラザにて。投句締切は4月10日、ハガキに2句。送付先〒061-1279 市内大曲並木3-4-2 中村泉様宛。

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

3月例会 「アフリカ、平和そして日本」 武井弥生さんのお話

武井 弥生（たけい やよい）さんは、北広島市内在住の医師で、余市協会病院 地域医療国際支援センターディレクターです。武井さんは、長い間アフリカを中心に現地の医療に関わってこられました。医師としての数多くの経験とその中から見えてきたものなどを語っていただきました。

武井さんは北広島で育ち、札幌の大学に進み、医師になりました。専門は熱帯感染症・自然家族計画・産婦人科です。1960年代の北海道では虫垂炎でさえも満足な治療を受けられずに亡くなることもあるという現実をなんとかしたいという思いとともに、シュバイツァーの活動などの影響もあって医師をめざしたとのことでした。

大学卒業後、東京で医師として勤務する傍ら、山谷のドヤ街などでボランティア活動にも参加されました。英国リバプールに留学して熱帯医学を学んだ後、エチオピアのクリニックに勤務しマラリア・栄養失調・腸チフス・破傷風など様々な病気の治療にあたりました。薬が無くなっても補充ができずに患者に悲しい思いをさせたり、医療設備など無い地域の住居で出産に失敗して失禁状態が常態になった女性の治療にあたるなどつらい経験もされました。また、当時のエチオピアは内戦中であり命の危険を常に感じながら、朝無事に目覚めたときの安堵感、また内戦後の無秩序状態の経験など様々なお話をされました。

その後、独立まもない東チモールでもマラリアなどの治療にあたり、日本では過去のものとなっている疾患や日本の衛生状態では見られないような症状の治療にも取り組みました。その後、再びアフリカに渡りタンザニアのクリニックで勤務されました。タンザニアは、ルワンダ・コンゴ・ウガンダなどビクトリア湖周辺諸国と比べると政情が安定していたため、これらの国々から難民が流入し、難民キャンプでの活動も経験されました。また、現地の人の要望に応じて日本語を教える活動にも取り組まれました。ウガンダではエイズが蔓延して非常に危険な状態にあったのが克服されたのですが、そこで「うなづき症候群」という病気に出会いました。日本に帰国したときにその病気についての学会が発足したのでそれに参加され、今後コロナ禍が収束したらまた現地で活動しようと考えていらっしゃいます。また、アフリカのコロナ禍の現状については、致死率の低さの要因として、検査が少ない、若年人口が多い、BCG接種、移動の厳しい制限などが考えられているが、換気の悪い場所で「密」の状態になることが少ないことも考えられるのではないかとのことでした。

最後に、日本とは違う悲惨な現実が世界にはたくさんあるということ、また日本の食生活が発展途上国に支えられているという現実もあり、特に後者については、農作物のプランテーション化などを考えると、私たちは経済的な侵略の当事者なのだという意識を持たなければ、とお話されました。

◎お知らせ 市民の戦争体験を伝える『バトンタッチ』第8集が刊行されています。頒価300円です。是非ご覧下さい。また皆様の戦争時の体験をお聞かせて下さい。

◎当会のホームページへの投稿を呼びかけています。お立ち寄り下さい。「憲法と私」のコーナーです。形式は問いません。イニシャル掲載です。

◎募金のお願い。当会は会員制をとっていません。皆さまの寄付による浄財が頼りです。ご協力をお願い致します。